



～ルーチン検査で役立つ7情報～

伊勢赤十字病院 前田 るみ子

☆①混濁尿の時、気を付けることは？

☆チェックポイント1 解説

✓尿の一般的性状（色調、混濁）は、尿定性、尿沈渣、尿定量検査などを実施する前に第一に観察するべき項目であり、さまざまな情報を得ることができます。

✓尿に濁りがある状態を混濁尿として扱います。混濁尿が起こる原因としては、尿中の塩類析出、尿路の細菌感染、脂肪成分の増量、血漿成分が増えることなどがあります。また、塩類析出によるものは正常検体でもみられますが、以下の混濁尿は、疾病が関与することもあるため、性状を捉えたのち沈渣を見るにあつたての注意や予測も必要です。



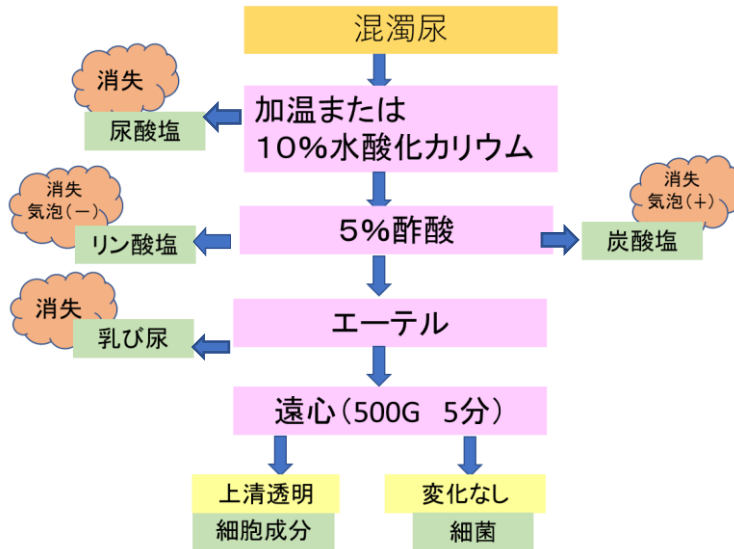
※↑全て混濁尿

- ◇膿尿：尿中に白血球が大量に存在し尿路の炎症を示唆 多くは細菌も認める。
- ◇血尿：赤血球が主体となった混濁で腫瘍、結石、外傷、腎機能障害等が原因で起こる。
- ◇乳び尿：牛乳のような白濁が生じ、リンパ球が混入する。

✓これら混濁尿はあらかじめ以下のような方法で鑑別が可能です。



【混濁尿の鑑別手順】



☆ チェックポイント2 注意点

- ✓自動分析装置による尿定性検査は、強度の血尿時には、次検体へのコンタミネーションや、試験紙パッドに色かぶりが発生し偽陽性の原因となることもある為、注意が必要です。遠心（500G 5分）後の上清を用いて行う方法もあります。ただし、この場合は潜血反応や白血球項目が低値傾向を示すことがあるので、要注意です。
 - ✓乳び尿はフィラリア症によるリンパ管炎や、腫瘍、外傷、腹部手術などにより胸管や腹部リンパ管が閉塞され、リンパ管と腎盂・腎杯などの尿路との瘻孔が形成されることにより、乳びリンパ液が尿中に漏れ出てくる状態とされています。乳びリンパ液は腸管で吸収された脂肪が乳化して生じ、その乳びの程度は脂肪の摂取量に伴い変化します。
 - ✓尿中リンパ球増多の報告は、尿路とリンパ管の交通を念頭に置くための重要な報告となります。（乳び尿では、リンパ液中の蛋白が尿蛋白として測定されるため、腎疾患に誤診され必要のない腎生検や治療に至る例もあるため注意が必要です！）
- * 尿路の細菌感染、塩類析出によるものに関しては次号以降に掲載予定の為、割愛させていただきます。